

学生大使 実施報告書

氏名：千野凪彩

学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部・人文社会科学科・人間文化コース・2年

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2024/02/21～2024/03/06

1 日本語教室での活動内容

日本人学生の人数が多かったため、マンツーマンで指導をした。教える生徒は特に固定制ではなかったが、3回ほど続けて担当した生徒が印象に残っている。自己紹介をしたあと、指導に入った。「日向クラブ」の方が作成してくれた予定表には、その日に教える大まかなテーマなどが掲載されていたが、生徒の日本語能力を考慮し、読み書きでは、漢字よりも、ひらがな、数字などを重点的に教えた。また、普段使っている日本語のテキストを持ち寄ってくれたため、それを一緒に解いたり、添削をしたりした。意味がわかっていなかった単語は最後にまとめテストとして出題したり、間違えた問題に関しては、少し文章を変えて再度出題したりするなど、理解が定着するように意識をした。また、テキストでは「時間」を中心に扱っていたため、授業の次の日の朝などに「今日は何時に起きましたか」、「昨日は何時に寝ましたか」などと生徒に話しかけ、授業時間以外でも授業の復習ができるように意識をした。

2 日本語教室以外での交流活動

「日向クラブ」の方たちは、朝早くから夜遅くまでずっと私たちに付き添ってくれた。お寺や、ホアロー刑務所、ショッピングモールや、ホアンキエム湖などの観光名所にみんなで訪れたことはもちろん、カフェやジム、カラオケに行ったりなど少人数での交流も印象に残っている。ホテルでフルーツパーティーをしたことや、最後の授業のあとにみんなで焼き肉を食べに行ったことが楽しかった。2週間の滞在を通して、私の名前をベトナムの方に覚えてもらったのが嬉しかったし、私もみんなの名前を覚えた。「日向クラブ」以外の方とも交流する機会があり、英語の授業や、ハロン湾へ行ったときなど、日本語に触れたことのない人々との交流もすることができた。

3 参加目標への達成度と努力した内容

参加前は、日本語を教える、ベトナムの文化を教えてもらうといったことを目標として設定していたかと思うが、どちらとも達成度は高いと考える。ただ、日本語教室に関しては、開催されるのが、平日の夕方1時間半という短い時間に加え、ハロン湾やそのほかの活動により時間が押してしまい、山大生が参加できなかった日があったのが少し心残りである。しかし、授業外の時間で、現地の学生、大学の卒業生とかなり密な交流はできたと思う。ベトナムの方とは、主に日本語、時々英語で会話をしたが、ベトナム語も教えてくれた。努力した内容としては、気になったことはどんどん質問するということである。ごはんに行くたび、

【学生大使 実施報告書】

おすすめの料理を尋ねていたが、いつも快く教えてくれ、すすめてくれた料理はすべて美味しかった。普通の海外旅行ではなかなか経験できないことだと思う。2週間過ごしているうちに、文化面に関して、日本と似ているところ、異なっているところがだんだんと浮き彫りになってきた。より多くの文化を吸収しようと、日本にいる時よりも常にアンテナを高く張っているように意識していた。

4 プログラムに参加した感想

今回のプログラムでは大学近くのホテルに宿泊し、ハノイの中心部にも2回ほどしか訪れていない。遠出することもあったが、基本的には大学近くで過ごすことが多かったため、ベトナムの学生が送っている生活を肌を通して感じることができた。一緒に行動していたベトナムの方がすすめてくれた食べ物はすべて食べた。アヒルの卵、カタツムリ、タニシ、鶏の足など個人で旅行に行ったら食べなさそうなものを食べることができた。車やバイクが途切れることのない道路や、路上カラオケ、「女性の日」が近いので、街のいたるところで売られているお花など、毎日が目新しいものでいっぱいだった。「日向クラブ」の方は、みなさん学校や仕事もあるだろうに、山大生単独で行動することのないよう常に配慮してくれていた。食事の際の会計や、道路の横断、日用品の買い出しなどベトナムで生活するすべての面でサポートしてくれた。感謝してもしつくせない。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回のベトナム派遣を経て、自分の英語力の低さを改めて痛感した。今回、行動を共にしたベトナムの方の中には、英語をとて流暢に話す方が何人かいたが、彼らは日本語を話さなかった。私はベトナム語を話せなかったため、彼らとは英語でコミュニケーションをとる必要があったが、話そうとしても、単語しか出てこず、一問一答のようなやり取りになってしまい、なかなか深い対話ができなかったからである。ベトナムでは、日向クラブに在籍するベトナムの方の他に、国家農業大学に留学している日本人学生にもお世話になった。彼はすっかりベトナムの方になじんでいたが、普段は英語でコミュニケーションを取っているという。英語で親しげに友人と話す日本人学生の姿を間近で見て、TOEICなどの資格勉強以外は、なかなか自分で英語の勉強時間が確保できていなかったが、それではいっこうにコミュニケーションで英語を使えるようにはならないと気付いた。この残りの春休みで英語の勉強に励み、休み明けからは山大の留学生をサポートする活動にチャレンジしてみたいと考えている。

6 現地での活動写真

写真1 ベトナムのお年玉（木につるした赤い袋の中にお金を入れる）



写真2 日本語教室



写真3 みんなと焼き肉



写真4 ハロン湾での初カヌー

